

## \*\*\* 今日の健康 (8月) \*\*\* <国内外・渡航時 狂犬病の危険性 (その1)>

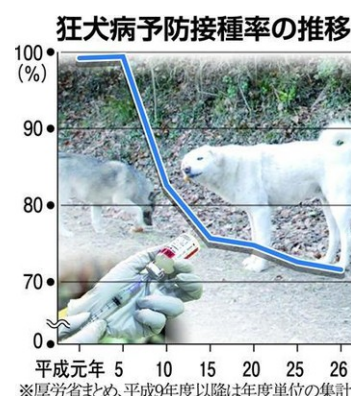
下線部は CTRL 押しながらクリックしてください。

### <狂犬病に対する認識の低下>

飼い犬に狂犬病ワクチン接種は行うべきであると、専門家は日本でのワクチン接種率の低さを挙げ、「日本は常に（狂犬病）侵入の脅威にさらされている」と警鐘を鳴らしています。

[厚生労働省](#) (狂犬病に関する Q&A について)によると、狂犬病は人を含むすべての哺乳類が感染し、人であれば、感染後にワクチンを接種することで発症を防げますが、発症してしまうと治療はなく、けいれんや呼吸困難、まひなどを引き起こしてほぼ 100%死に至ります。かまれるだけでなく、傷口をなめられるだけでも[感染します](#)。

日本では 1950 年に「狂犬病予防法」が制定され、飼い犬の登録と狂犬病予防注射が義務化され、違反した場合、20 万円以下の罰金が科されますが、近年は犬の狂犬病の予防接種率の低迷が続いており、厚生労働省によると 2014 年度、全国の市区町村に届け出のあった飼い犬 662 万匹のうち、予防接種を受けたのは 474 万匹で、接種率は 71.6%。1993 年ごろまでは 99%以上で推移していましたが、1996 年に 90%を下回り、以降急激に低下し[接種率が低下しました](#)。朝日新聞デジタルによると、登録していない犬も多いとみられ、実際は 4 割程度しか予防接種を受けていないとの推計もあります。



日本で人が発症した狂犬病は 1956 年を最後に半世紀以上発症例がなく、動物では 1957 年の猫が最後で、過去の病気と判断され狂犬病への関心の低下に加え、小型犬を室内で飼う人が増え外に出さないからと、予防接種率の低下につながっていると思われます。

隣の台湾では半世紀ぶりの感染も確認されています。日本と同様 50 年以上狂犬病が発生していなかった台湾では、2013 年に野生動物の間で狂犬病の流行が確認されました。2014 年 7 月 7 日までに、台湾国内の広大な地域にわたってイタチアナグマ 389 頭のほか、ジャコウネズミ 1 頭、犬 1 頭に狂犬病の発生が[確認され](#)、ウイルスの遺伝子情報から、何十年も前から台湾の野生動物の間で流行があったことが[示唆されました](#)。このことから日本でも厚労省が国内の野生動物の調査を行い、感染例は確認されませんでした。国内での感染の危険が消えたわけではありません。

(次号は輸入感染症、海外渡航について)

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861  
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏